

子供の生活にみられる音楽的行動

Musical Behaviour in Child Life

武田道子

Michiko TAKEDA

(昭和59年10月11日受理)

はじめに

ここ数年、幼児を対象とした教材集は、おびただしいばかりに店頭に溢れている。保育研究者あるいは保育の現場教師による作品、作詞家・作曲家の作品、また昔ながらの懐しのメロディーなどその内容はさまざまである。ある曲を解説書通りにやってみたら、それなりに面白かったが、子供にとって毒にも薬にもならなかったという作品が多いのも事実である。

一方では、マスコミなどにより意図しない教育の場(家庭)での子供達の音楽的発達がめざましく、その感覚・表現力は、大人も及ばないところにまできている。

さらに、子供の将来を考えてと早くから音楽教室に通わせて、知的にも技術的にも高いレベルのものが子供達に要求されている。

7歳までは、身体の健全な発育、そして五感による環境の模倣の時期であり、無理に記憶力を動員して何らかの学習意欲をたたきこもうとするのは、生命体の不自然な早産をまねくことになると言ったシュタイナーの言葉を改めて思い起こさせる現実である。

あふれる音楽教材、与えすぎ・行き過ぎの音楽指導、種々様々な音楽教育論等、正しい幼児の音楽指導への道が求められているのもこのあたりの事情を物語っている。

さて、本論文は、その糸口として、まず原点である子供の遊び、その中に現われる音楽的行動の実態を探り、そこを出発点にして望ましい教材観・指導観を考察していこうとするものである。尚、望ましい教材観・指導観を考察する指針として、幼児の音楽教育の意義・目的を次のようにおさえておく。

- (1) ふくよかな心情を育てる
- (2) かわいらしい音楽性の芽ばえを育てる
- (3) 楽しい生活や遊びに役立つ¹⁾

以上の意義・目的に照らした時、どういう教材が、どのような指導が、心を育て、音楽性の芽ばえを育て、楽しい生活や遊びに役立つであろうか……ここに視点を置いて考察したい。

I 調査の概要

1 対象・期間

静岡県内の乳児～幼児～小学校低学年・昭和58年9月～昭和59年2月

2 方法・内容

ア 採集者……筆者，静岡大学教育学部学生

イ 観察

- 日時・場所 ◦遊びの誘因
- 人数（遊び相手もチェック） ◦遊びの形態・内容・方法
- 遊具

（備考）・調査者の誘導による行為は一切しない ・用いられたリズム・メロディーは録音または採譜する。

II 結果と分析

1 対象・年令

静岡県内において，偶然そこで目撃した音楽的行動について採集したので，同一集団・同一児の継続調査ではない。但し，即興遊びについては，その内容の性質上，同一集団での継続観察の形のものもあり，それらはいずれも静岡県内の幼稚園・保育園の自由遊びの場を利用した。

表1 年令別人数

年令	～2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	合計
人数	16	81	88	92	34	35	15	361

表1は年令別の人数であるが，1つの縄とび遊びを5歳児5人での場合，すべて5歳児の人数として加算した。採集した音楽的行動は229例であるので，132名が何らかの遊びに重なっている。

このだぶりは，集団の遊びが多くなる5歳児を中心に，4～6歳以上に多い。

さて，表2は遊びの相手である。尚，ここでは指定2園の82例は除く。

表2 遊びの相手

対象	なし	友達	母親	兄弟・姉妹	祖父母・大人	合計
件数	48	39	27	26	7	147

異年令の遊びの中で，つきそいの母親が含まれる場合，あくまで友達集団としての遊びであると認められた時には，友達相手の項に含めた。

2 場所

調査場所・時間共に限られた制約の中での調査であり，十分とはいかないまでも一応229件の音楽的行動を観察することができた。

表3 音楽的行動が観察された場所

自宅・知人宅	38	園庭	16	自宅・アパートの庭	6
バス・電車内	34	道	11	スーパー・店内	6
公園	24	空地・駐車場	7	待合室（駅・病院）	5

③……表3には，指定2園は含まれていない。

3 音楽的行動の実態

採集した音楽的行動の分類にあたっては，まず表現（歌唱・器楽・創作）と鑑賞の視点から大別し，さらにそれぞれの領域の中で特徴となる活動の別に分類した。尚，無視することので

表4 活動別音楽行動の出現件数

表 現	歌	86	器楽	8	創作	110	鑑 賞 20
	うた遊び	35	楽器遊び	8	歌詞唱	82	
	ジャンケン・手遊び	28			擬声音唱	16	
	全身遊び	18			擬声音奏	4	
	絵かきうた	5			替え歌	8	

きないテレビの影響については，別わくに入れた。

以下，教材観あるいは指導観にせまるといふ意味から，具体的に音楽的行動のあらわれ方について

見ていくことにする。

〔歌唱〕

(1) うた遊び

表5 うた遊びにおける題材および所見

題	材	作詞	作曲	所見	件
汽	車	宮原 薫	草川 信	・車内で、車輪の音に刺激されて ・ダンボール箱の汽車にのりながら、また砂場に作った線路におもちやの電車を走らせながら	1 3
チュ	ー	不	明・井上 武士	・公園に咲いているチューリップを見ながら ・母親の真似をして、手でチューリップを作りながら ・車中、何んとなく動きをつけて	1 1 1
ア	イ	相田 裕美	宇野誠一郎	・2人で踊りながら問答唱で	2
お	か	不	明・不 明	・「さあ おかたづけをしましょう!!」の言葉がけをきっかけに	2
む	す	不	明・ル ソー	・祖父の動きを真似しながら ・人に聞いてもらいたく動きながら	1 1
ヒ	ロ	伊藤アキラ	平尾 昌晃	・「このお姉ちゃんは大あれ。の問いかけに答えて	1
サ	ッ	阪田 寛夫	大中 恩	・友達の名前を尋ね、「サチコ」の答えを聞いて	1
ど	ん	青木 存義	梁田 貞曲	・5人で庭に池づくり、シャベルのリズムに合わせて	1
お	き	不	明・外 國	・駅待合室で、5歳児兄が、妹に歌と動きを見せながら	1
お	つ	関根 栄一	團 伊玖磨	・絵本にのっていたありの絵を見て	1
な	ま	わ	ら べう た	・絵本と同じ遊びがのっているのを見て兄妹で	1
ま	ま	藤 摩 忠	小林 秀雄	・まっかに色づいたみかんを「まっかだね」と言ったら	1
夕	や	中村 雨紅	草川 信	・バスの中、美しい夕焼けを見て	1
こ	ち	不	明・ドイツ 民謡	・車窓から次々に見えるこいのぼりを指さしながら	1
手	桃	小 林 純一	不 明	・花にとまった蝶々を見て、自分も両手を動かしながら	1
七	つ	野 口 雨情	本居 長世	・車中、あきてきた子供に対し母親の誘いかけで ・バスの中で、くり返しくり返し——母親が時々補助をしている。 ・駐車場で、祖母が孫の肩に手をおき、拍子をとりながら歌って聞かせる。子供も一緒に覚えようとして	1 1 1
は	と	文 部 省	唱 歌	・おもちゃのロボットを動かしながら	1
あ	わ	吉 岡 治	小 林 亜星	・車中、サンタクロースの人形を窓ガラスに写し、人形を動かしながら	1
お	な	阪田 寛夫	大中 恩	・食卓に座わり、はして茶わんをたたいて、首を左右に振りながら	1
か	か	わ	ら べう た	・トランプのカードの受け渡しの際に	1
ピ	ン	荻 原 英一	イギリス 民謡	・遊具で遊んでいる時に、突然	1
イ	ン	山 中 恒	湯 浅 譲 二	・ピクニックへ出掛ける車中で	1
数	字	夢 虹 二	小 谷 肇	・路上で、3人一列になりインディアンになって踊りながら ・暖房のきいた車窓に、数字や絵を描きながら——姉弟で楽しく問答唱	1 1
あ	そ	不	確 定	・「〜あそんじゃだめよとしかれて べんきょうしないとしかれて ぼくらの心のすみっこで〜」〜身体いっぱいにおどけた動きをつけながら	1

(2) ジャンケン・手遊び

表6 ジャンケン・手遊びにおける題材および所見

曲名	所見	件
げんこつ山のためきさん	・車中母親を相手に、ジャンケンの後は、一本橋のぼつゲームで ・公園で母親を相手に ・歩道で友達と2人で ・広場で友達と順番を待っている間に ・公園で友達とベンチに腰かけて ・園庭で1人だけで動きをつけながら	2 1 1 1 1 1 1
おちやらかホイ	・庭、1人の子が家人に呼ばれて家に入る。その子を持つ間に ・駅の待合室、姉妹で電車の時間を待つ間に——両親は見守っている。 ・車中母親と一緒に——子供はまだルールが把握できていない。 ・遊びに来たいことを相手に ・駐車場で友達2人と	1 1 1 1 1 1
お寺のおしょうさん	・車中母親を相手に ・庭で友達と——1拍毎に手拍子と手合わせをくり返し、2小節目の3・4拍目にジャンケン、4小節目の3・4拍で負けたものがおでこをつつかれる。これを1曲の中の4フレーズ分、計4回くり返す。	2 1
みそラーメン	・園庭で友達と——「せっせっせのみそらーめん〜……両手をつなぎ上下に3回振り、続いて両手を交差させる。〜牛ぼうに椎茸人参味の素 ホッ!! ゆで玉子 ホッ!!〜……手拍子と手合わせを続け、「ホッ!!」の所は、両手を両頬でひらく。〜つるつるラーメンジャンケンボン〜……両手こぶしをぐるぐるまわし、ジャンケンをする。	1
両手でジャンケン	・車中母親と一緒に——両手を同時に出してジャンケンをし、「どっちかひっこめろ〜で瞬間的に片手をひっこめ、残った手で勝負がきまる。	1
桃太郎	・車中兄弟で——フレーズ毎にグウ・チョコキ・パアを出す事を約束、まちがえると負け。速度も声も、はやく大きくなる。	1

せぶんいれぶん	・車中母親一緒に——テレビコマーシャルのメロディーを使い「せぶんいれぶんいいきぶん」は、手拍子と両ひじを交互におさえる。「あいてよかった」で両手をぐるぐるまわしてジャンケンに入る。	1
おせんべやけたかな ずいずいずころばし 糸まきの歌	・車中母と姉妹3人で——遊びの途中で速度を変化させてくふうする。 ・自宅母と姉妹3人で——歌詞は多少変化している。	1 1 1
一本橋	・公園で兄妹で向かい合って——「いともまきまき」……足ぶみして手をぐるぐるまわす。「ひーてひーてとんとん」……お互いに手をひっぱり合ってから足ぶみをする。	1
三月三日のもちつき	・車中母親の背中の赤ちゃんを相手に——2本指で赤ちゃんの背中を下から上にくすぐりながら、そのほっぺをなでてあやす。赤ちゃんは大喜びである。	1
アルプス一万尺	・自宅で親せきのお姉さんを相手に——7歳の年齢にぴったりの遊びであり、リズムにしっかりのって遊んでいる。	1
茶つみ こもりうた	・車中姉妹で——姉の方が妹にいっしょうけんめいに教えている。 ・車中大人を相手に——手遊びのやり方は前の例と違う ・車中たいくつしのぎに姉弟で ・歯医者待合室母親と——「ねんねんころりよ……」への子守唄に合わせて、「ねんねん」で母親の膝打ち、「ころりよ」で手合わせ→これをくり返す。	1 1 1 1 1

(3) 全身遊び

表7 全身遊びの題材とその件数

縄とび	・大波小波……3 ・おじょうさん……2 ・ゆうびんやさん……2	鬼遊び	・ポコベン……1 ・だるまさん……1 ・かくれんぼ……2	手つなぎ	・かごめかごめ……2 ・花いちもんめ……3 ・あぶくたつた……1	ケンパ	・ケンパ遊び……1
-----	---------------------------------------	-----	------------------------------------	------	--	-----	-----------

(4) 絵かき歌

- ・新作もの……3例
- ・テレビの絵かき歌……2例

〔器楽〕

表8 楽器遊びの内容

ピアノ	・はとぼっぼの歌を歌いながら、両手で歌のリズムに合わせて鍵盤を——ただ音のかたまりをならしているだけである。	1
鍵盤ハーモニカ	・何か楽しそうに歌いながら、気のむくままに指を動かしている。読める筈もない楽譜をたてて「ねむれー ねむれー」と歌いながらさぐりびき	2 1
木琴	・親せきの家で、はじめて鍵盤ハーモニカを吹いているのを見る。吹いた子が飽きた頃、自分も一けん命に——2歳児である。	1
玩具の太鼓	・幼稚園で習った歌を——かたわらで母親は仕事をしながら、大きな声で歌ってやっている。 ・木琴をたたいて遊びながら——グリッサンド奏のきれいな音に気づく。その内「ちようちよう」を歌いながらグリッサンド奏を楽しむ。 ・姉(6歳)のピアノに合わせて太鼓を——身体も動かして楽しそうである。	1 1 1

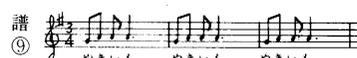
〔創作〕

即興遊びは、特定集団による継続調査82例を含めた為、全体で110の事例が集まった。(その譜例については、いくつかを挙げてみるにとどめる。)

(1) 歌詞唱(言葉のついた即興唱)

- ・まとまりのあるふし……31例
- ・2つの言葉のくみ合わせ……20例
- ・同じ言葉で同じメロディー……17例
- ・1つの単語だけ……8例
- ・同じ言葉で違うメロディー……6例

表9 歌詞による即興唱の内容と所見

まとまりのあるふし	同じ言葉で同じメロディー
<p>譜①</p>  <p>・自分で折った折り鶴をとばしながら</p> <p>譜②</p>  <p>・おもちゃで遊びながら</p> <p>譜③</p>  <p>・おもちゃを友達にとられて追いかけながら</p>	<p>譜④</p>  <p>・おもちゃのブロックをやきいもにみたてて</p> <p>譜⑤</p>  <p>・「輪車を見つけ、それをのりまわしながら</p> <p>譜⑥</p>  <p>・積木を高く積み上げながら</p>

	擬	音	奏
譜②	2	♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪	○マーケットでガムの容器をふりながら一左右の耳で交互にリズム奏を楽しむ。
譜③	2	♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪	○ままごと遊びの最中、お鍋に貝がらを沢山入れて、それをふりながら
譜④	2	♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪	○金色のさかづきを2枚合わせて、シンバルのようにして打ち合わせながら
いろいろなリズム形で			○水の入ったコップをおはしてたたき、音色がきれいだったのをきっかけに一 皿・鍋・テーブルまでたたきはじめて音を楽しむ。

(3) 替え歌 (8例)

- ・歌詞の一部を替えたもの……へ大さむ小さむ山から千草 (女の子の名前) がころがったへ
・へちようちようちようちよ ぼくの木にとまれへ・ずいずいずつころばしや花いちもんめ
の歌詞の一部の変化など
- ・反対の意味になるようにしたもの……へ芽が出ないふくらまない 花が咲かない実が
ならないへなど
- ・友達をはやしながらかつたもの……へはげはげはげ アデラシス (テレビのコマーシャル
のメロディーで) へ続いてすぐに、へはげが来たはげが来た どこに来たへなど

〔鑑賞〕

表11 鑑賞遊びの内容

曲名	所見
小犬のワルツ	・テレビのピアニストを模倣し、身体を左右に動かしてひき真似を楽しむ。
宇宙船艦大和	・自動車の中で、軽快な曲に合わせて自分の膝を左右交互にたたく。
ジャングルベル	・書店で絵本を見ていると、B・G・Mが静かな曲からジャングルベルに変わる。その途端に手拍子とスキップが始まり、店内中を動きまわる。
カチカチ時計	・父親がレコードをかけ曲に合わせて首を左右に動かすのを見て、すぐに自分も真似をし膝の上をぼんぼんたたきながら聞き始める。
パジャマの歌	・夕方暖房のきいた部屋で、風呂上りの男児が注意されてもパジャマを着ないで遊んでいる。すかさず母親がへパジャマ パジャマへと歌い出すと、見事にパジャマをとりあげて着はじめる。

〔テレビの模倣〕

表12 テレビ模倣で歌われた曲と件数

パーマン 4	ぼく笑っちゃいます 2	エスカレーション 1	テン丸君 1	あみだくじ 1
めだかの兄弟 2	マンガ主題歌 1	ワイワイワールド 1	氷雨 1	天国のキス 1
人気歌手の歌 2	宇宙刑事サリバン 1	ダイナマン 1	北酒場 1	

テレビという映像効果が生かされて、必らず身体の動きを伴って歌われる。その表現力はすばらしい。反面、歌詞・メロディー共に不確実である。くり返される歌詞・特徴的なリズム・メロディーの部分は何回も歌う例が多い。

4 遊びの誘因

遊びの誘因について所見欄でも触れているが、全体をまとめると以下のようなになる。

- ・具体的な事物に結びついた時に……37 (19)
- ・友達などとの会話やはやし言葉などを通して……24 (24)
- ・退屈で何かして遊びたいと思った時に……24 (0)
- ・身体の動きに結びついた時に……18 (5)
- ・目で見えたものがきっかけになって……17 (8)
- ・遊びへの導入・順番・約束を決める時に……17 (13)
- ・心が落ちついてしあわせな時に……12 (2)
- ・誰かに聞いて欲しい見て欲しいと思った時に……11 (1)
- ・親や友達の模倣がきっかけで……10 (0)

- ある言葉がけがきっかけとなって…………… 7 (0)
- 遊具が用意されていて…………… 7 (0)
- 耳に聞えてきた事がきっかけで…………… 7 (0)
- 遊びの中で偶然発見した音をきっかけにして…………… 5 (0)
- 自分の要求を相手に訴えたいと思った時に…………… 4 (2)
- 遊びの中でのばつゲームとして…………… 2 (0)
- 寒い・暑いなど生理的な事がきっかけで…………… 1 (0)
- 不 明……………26 (8)

合 計 229 (82)

注 () 内は、特定園での82例の内訳である。

III 考 察

1 歌唱

(1) 教材選択への示唆

歌遊びで歌われた曲をみると、明治・大正・昭和初期の作品やわらべうたが根強く生きている事がわかる。しかも、それが表現される過程では、子供の生活に密着しているのである。

庭で池を掘りながら、くわの動きに合わせていつとはなく歌われた「どんぐりころころ」の例にもみるように、それがまた子供達の生活・遊びを楽しくしている事は事実である。その意味から、作品の古さ・新しさに限らず、子供達の遊びの中で口ずさまれる歌は、それぞれに真赤な血の流れている曲であるという事ができる。

さて、以上の事を幼児音楽の意義・目的に照らして考えてみる。音楽を楽しい遊びに役立てるといふ側面からは十分である。ふくよかな心情、かわいらしい音楽性の面からはどうであろう。

先程の「どんぐりころころ」の例でみてる。めいめいがそれぞれに自分のくわのリズムに合わせて歌っているのであるが、ひとりが「どんぐりころころ〜」と大声で歌うと、すかさず別の子が前の子よりもっと大きな声で曲の始めから歌うのである。てんでんばらばらで自分本位の歌い方である。そして全員が「〜お池にはまってさあ大変〜」までくると、また歌の始めに戻るのである。……これは曲自体が悪いのではない。むしろ指導法への問題に大きく関わっているのである。

更に、子供達あるいは親が知っていて口ずさまれた歌ではあるが、電車に乗っても、おもちゃの電車を走らせても「汽車」の歌、花の歌は「ちゅうりっぷ」のみというのでは、ふくよかな心情を育てるといふ面から考えても情ない限りである。

以上の事をみる時、筆者は教材と指導法とは一対のもの・分離し得ないものという考えを深くせざるを得ない。

さて、手遊びをはじめとする伝承遊びは、歌遊びの大半を占めて採集され、わらべうたが子供達の遊びの中で脈々と生き続けている事がわかった。しかし、わらべうた以外も含めて、ひとりあるいはふたりで遊ぶ形のもものが60.8%もあった。その相手も友達より、兄弟や親を相手の方が多くなっている。また、絵かき歌の5例は、いわゆる伝承的なものとは多少ニュアンスを異にし、テレビのマンガ主人公を描くなど新作ものばかりであった。それにしても、子供達は伝承的な絵かき歌を案外知らないのである。筆者の調査からも、子供達がこれらのものに

飢えているという感があった。友達とジャンケン遊びをしながら描きあげていく絵かき遊びなども含めて、子供達にその楽しさを味わわせたいものである。

これに対し、集団遊びの中では、大きい子がリードして遊びを教え合うという姿が見られ、この意義は大変大きい。わらべうたに限らず、集団で遊べる歌をもっと見直す必要があろう。

わらべうたは日本語のもつ accent や inflection が昔も今も変わらない。つまり、幼児が一番たやすく操作できるという利点がある。しかし、現代の子供達は多種多様なリズム・歌・音楽など否応なしに耳にし、この受動的体験は幼児に大きな影響を与え、新しい情動力を蓄積している。教材の選択にあたっては、わらべうたを大切にすると同時に、今の子供達の情動活動を満足させるようなものを考えていかななくてはならない。

「ごく初歩の段階では——たとえば幼稚園や小学校1年生では——教師が選曲のおもな責任をとるべきでしょう。幼い子供の経験は非常に限られたものですから」¹²⁾とマーセルも言っているように、教師に課せられた役割は大きい。

具体的には

- 題材面からは、わらべうたを中心として自然・生活（行事）・花・動物・乗り物・お話・遊び歌など幅広く。
- ひとりでも楽しめるもの、またみんなと一緒に楽しめるものを。
- 必らず何かをしながらという形で口ずさまれている。そこで特に動きに結びつくものを。
- 音楽性の面からは、くり返しのリズムや擬声音の入ったものということができる。

(2) 指導法への示唆

歌遊びの指導を考えるには、子供の歌遊びの誘因になったものに目を向けるのが近道である。そこから考察してみると、退屈だし何かやりたい、楽しいことはないだろうかという状況のもとで、遊具もいらない手遊びやジャンケン遊びなどが行われている。そして、この遊びにより一気に楽しさが盛り上っている。園での保育活動の中で、例えば順番を待つ間、時間と時間のつなぎをうめる時などの機会をとらえての遊び歌の指導・活用は大変有効である。

以下、歌遊びの誘因となったいくつかの内容から、指導法への示唆となる所をまとめてみる。

- ① 具体的な事物・経験に結びつけた指導をくふうすること——例えば、題材に直結する物・遊び・生活を通してという事である。
- ② 視覚に訴えた指導をくふうすること——例えば、場面や情景をあらわすような教便物を用意してという事である。
- ③ 身体の動きに結びつけた指導をくふうすること——子供が歌を歌っている時、必らず身体が動いているという事実は無視できないという事である。
- ④ 導入の言葉がけが指導上の鍵となること——曲のイメージ作りの為の言葉がけ、題材と子供の生活を結んでのお話の仕方、曲に対する興味・関心が違ってくるといいう事である。
- ⑤ モデリング欲求を満足させるような指導の形をくふうすること——友達や教師の模倣、特に教師による美しい発声、明確な発音、正しいリズムや音程での範唱の提示は、最高のモデルであるという事である。
- ⑥ 人に見てもらいたい、認めてもらいたいという欲求を満足させるようにすること——折ある毎に、そのための場を設定してやる事が大切だといいう事である。カイヨウが共感をこめて注目してくれる観衆の存在が必要だと力説しているのはこのことである。尚、関連して日

常保育の場にあつては、教師の子供と共に遊びこむという姿勢が、子供のこの欲求を満たすことにもつながるであろう。

2 器楽

(1) 教材選択への示唆

楽器遊びとして採集できたのは、実際に楽器を使っていた場合の8例である。しかし、筆者は人間の身体自体が1つの楽器となって音楽に反応するというマーセルの説をとりたい。つまり、特に幼児の場合、リズムに合わせての手拍子・膝打ち・足拍子、また何か身の回りにあるものをたたいたり、歌いながら踊ったりなど、これらすべてが楽器遊びの大事な内容だと思うからである。

具体的に「おせんべやけたかな」の遊びの中でみてみよう。歌いながら拍の流れにのって、ひとりひとりの友達の手にふれていく動きそのものが、楽器遊びの姿であるわけである。この上下の手の動きは、そのままカスタネットや鈴その他の楽器の模擬演奏的な動きに結びつくからである。「どんぐりころころ」のくわの動きそのものに対しても同じ考え方である。

従って、幼児の場合は特に「歌と楽器と動き」は、一体のものと考えた方が妥当である。そして、この一体化した姿の中で、生活や遊びに役立ち、ふくよかな心情を育て、かわいらしい音楽性の芽ばえを育てることに結ぶような器楽教材が考えられなければならない。

そこで、幼児の場合ということでもとめる事にしたい。幼児の場合、その原曲は歌唱教材である。従って、歌唱教材の選択に準じて考えてよいわけであるが、楽器を使う事により、明快なリズム遊びが楽しく、またいろいろな音色を楽しむことができるという歌遊びとはまた違った次元においての味わいをもたねばならない。つまり、楽器の種類とか演奏形態なども含めて教材という事になるわけである。

今回の楽器遊びの8例は、そのすべてが単独演奏のものであった。また、ピアノ・鍵盤ハーモニカ・木琴とはいえ、ほとんどの例が単なるリズム奏、あるいはおもちゃ的な扱いと考えられる内容であった。

幼児の音色に対する興味・関心の強さについては、多くの学者によって実験実証されたことである。今回の調査から、教材を考える上で参考となった事は、自分の表現したいイメージと音色とが結びつくものには反応が速い、また、表現されたリズムは、基本リズムあるいは簡単な応用形であったという事である。尚、楽器遊びの重要な部分である分担奏や合奏の教材のあり方という事については、文献(3)に筆者の考えを述べているのでここでは省略する。

(2) 指導法への示唆

18ヶ月の子供がベルやホイッスルや時計の音に敏感に気づいていて、一方、4歳の子供は楽器を使って実験すること、ピアノで音を組み合わせることを好む⁽⁴⁾とゲゼルやイルクが言っているように、今回の調査の中でもその光景が観察され、楽器の音色を心から楽しんでいる姿が見られた。すなわち、音に対する興味づけが指導に生かされるようくふうすべきであるとする所以である。そして、始めはたわむれの感情つまり楽しい探険の感情を重視してという事になるであろう。音楽を奏する事を、英語ではplay、独語ではspielen、フランス語ではjouerとそれぞれ「遊ぶ」と訳されているのも興味深い事である。

さて、次の段階は音楽的な発達の著しいこの時期に、もう少し音楽的に質の高い楽しみ方という事になる。あくまでも耳に訴えての前提のもとに、美しい音色を得るにはどうしたらよいらうかという奏法への興味づけ、そして友達といっしょの題材のイメージに合う音色やり

ズム・速度・強弱などの側面での体験がある。マーセルはこの事について次のように言っている。「声楽でも器楽でも、幼い子供の初歩の音楽の勉強には、クラス指導のほうが個人指導よりもたしかにすぐれた環境をつくり出します。」⁽⁵⁾……つまり、友だちと心をつなぎ合いながらの学習こそが幼児にとっては何よりも大切だということである。そして、筆者によれば、音楽に対する愛情と音楽的感覚を養うことは、早期に技術を発達させることよりもっとも根本的なものであるとも考えるわけである。このあたりの扱いについては参考文献(3)に述べた通りである。

最後に、今回の楽器遊びの調査では、いつもそれを見守っている人がそばにいた。楽しそうに何か口ずさみながら鍵盤の上で自由びきをしていた女の子は「いい音楽聞えた？」と同意を求めている。音色への興味を発展させる為には、こうした活動を励ます指導者の適切な言葉かけの大切さを知る思いがした。

3 創作

(1) 教材選択への示唆

遊びにあらわれた即興遊びの素材となったものは、友達との遊びの中で交わされる名前呼ばや会話、楽しく幸せな気分にいる時のつぶやき、物売りの真似、教師や親との対話、物音や鳴き声の真似、音に対する興味からの即興、身体の動きに合う口ずさみ等々いろいろであった。決して、〇〇作詞・〇〇作曲というものではない、正真正銘子供の自己表現のすべてである。

ムーアヘッドとポンドは「幼児は自分の周囲のあらゆるものから音を鳴らそうとする。そしてこうする一方で耳を傾けている。——それは目的のない仕事なのではない。ある音が他の音よりもずっと気に入っているのだ——幼児にとって音楽は、何よりも音の発見なのだ」⁽⁶⁾と言っている。つまり、即興遊びの素材は、子供の遊びのいたる所どころにあるのである。素材探しは子供の得意とするところである。保育者の役割は、子供の遊びを保障し、それを暖かく見守ってあげるといことであろう。それがつまり即興遊びを促がすベースになるわけである。特に、保育の場での自由遊びは格好の機会である事を銘記しておきたい。

(2) 指導法への示唆

「歌を歌い始める年令の幼児の歌はしばしば自作自演であり、しかも日本語の語勢（アクセント）と語調変化（インフレクション）に忠実です。そして、それは彼らの歌唱表現の基本です。また、ひとつ重要なことは、こうして生まれるメロディーはたいていの場合、昔からのわらべうたの音階に基づいています」⁽⁷⁾と園田三郎は言っている。また、ムーアヘッドとポンドは、幼児が作り出す音楽の2つの型、チャントchantとソングSongとを区別している。

結果に示した例にみるように、いわゆる子供の遊びの中で交わされる歌はチャント＝ふしことばを中心としたものである。ムーアヘッドらの調査によるとチャントは子供が自由で幸せな時に起り、情動の源の近いところにある。そしてチャントが最も多く生じるのはある種の運動神経が活動している時であった⁽⁸⁾ということである。筆者の調査でも、この事がよく表われていた。つまり、即興遊びを活発にする特効薬は、子供が幸せに浸って遊べるような遊びとした環境を保障するという事になるであろう。

しかし、シューターは次のようにも言っている。——「幼児の作った歌が現存する音楽に類似しているという事は、ある程度その子の音楽的資質と同じく、幼児が聴いたことのある音楽の種類の間数であるだろう」⁽⁹⁾……と。すなわち、そのかわいらしい音楽性を測るバロメーターということにもなり、楽しい歌遊び・楽器遊び・鑑賞遊びの経験が生かされることの大切さ

を示唆した言葉であると考えられるものである。

4 鑑賞

(1) 教材選択への示唆

鑑賞遊びは、直接観察したものが5例であったが、実際にはレコード・テレビ、友達や兄弟、親や教師などの歌や演奏を常に耳にしているわけである。しかし、この5例の中には教材選択への手がかりとなる示唆が多く含まれている。整理してみると、以下の通りである。

ア 曲名は結果欄に述べたので省略

イ 演奏形態……独唱・独奏・吹奏楽・管弦楽

ウ 音楽の種類……歌曲・舞曲・描写音楽・小品・行進曲

エ 曲想……軽快・明るい・歯切れのよいリズム・ロズさみ易いメロディー

以上から、子供が自由な気持ちでいる時に、心の中に受け入れられる音楽の条件が自ずと見えてくるようである。

尚、マーセルの次の言葉を肝に銘じておきたいと思う。

「概してすぐれた音楽は、リズム構成・旋律・楽句・和声などの構成が精巧で繊細であり、その教育的価値は、低級な音楽に比べてより多くの、より重要なことが成し得られる。」⁹⁴

(2) 指導法への示唆

音楽を聞いている時、子供は模擬演奏をしたり、手拍子や膝打ち、スキップなど身体全体を耳にして音楽に反応していた。これらの所見にあらわれた中で、指導法へ生かせるいくつかの視点をまとめてみることにする。

ア 何かをしながらの指導をくふうする。

イ 生活・遊びの流れの中で、それらの活動に合う音楽が自然に耳に入ってくるようにする。

ウ よい聞き方への態度・習慣の育成には、みんなで聞くという場のほうが有効である。特に、教師の音楽の聞き方その反応態度は、子供に大きな影響力を及ぼす。

エ 楽器の音色については、その楽器を十分知っているという事を前提にしての模擬演奏が有効である。

5 テレビの影響について

現代の子供達の音楽教育を考える時、テレビの影響という事を素通りには論じられないであろう。テレビが家庭に普及しはじめた昭和36年12月10日の朝日新聞に次の記事がある。

〔(前略) テレビの児童・青少年に与える影響について文部省が調査したところによると家庭でそれ程心配する必要はないと楽観的な見方をしている。テレビも2・3年たつうちに慣れて子供達の珍しがる気持も薄れ次第に落ち着いてくるのが実情だという。さらにテレビをもつ家庭の子供の方がかえって勉強するとのことである。ところが、民間放送連盟の調査では、テレビ所有世帯の児童は読書の親しみが薄れ――どちらが本当だろうか〕⁹⁵

さて、20数年たった現在は？、NHK世論調査所その他の調査にみる通りである。2時間あるいは3時間以上もテレビづけになっている子供達、その教育的・心理的な影響力は測り知れないものであろう。

では、音楽的影響という点からはどうであろうか。今回の観察例は、20例だけでいわゆる歌謡曲・アニメマンガ・コマーシャルソング等の模倣例である。しかし、実際には歌遊びの中で歌われた曲の中にもテレビによって紹介されたものも多く、またテレビのピアニストを見ながらの模擬演奏なども、テレビの影響と考えられる内容である。この事も頭におきながら、20例

について、その表現形態を眺めてみることにする。

歌詞・メロディー共に大変不確実ではあるが、自分達の遊びの中に巧みにとり入れている。それを歌うこと自体が目的ではないのである。例えば、小高い土の山から駆け降りる時、また友達と追いかけてっこをする時の伴奏音楽としてパーマンの歌の一部が歌われたり、グループでのジェンカの踊りの曲として氷雨が使われたり、電車から降りる時にへすいすいすいすい〜へとめだかの兄弟のひとふしがロザさまれたり、子供達の応用力と創造力の豊かさに驚ろかされるのである。

先回の筆者の調査でみると、「テレビ視聴時間3時間以上の子供は、1時間以内の子供に比べて、リズムカルで表情豊かな歌い方や発声の面については優れている」¹⁰⁾このことから、リズム感・旋律感という感覚面ではテレビによる効用は大きい。しかし、子供らしいふくよかな心情、かわいらしい音楽性を育てるという教材観に立った時、テレビでは埋めることのできない多くの問題が残されているという事がわかった。

ま と め

子供の生活にみられる音楽的行動を糸口にして、望ましい教材観・指導観にせまってみたわけであるが、観察を通して現代っ子の吸収力の速さと応用力のすばらしさ、表現力の豊かさには眼をみはる思いがした。良いものを吸収させ、それを応用し、豊かな表現に導くことの重要性をしみじみと感じたのである。また、指導による音楽遊びの経験が、子供達によって好きな仲間・時間・場所で自主的に生かされた時にこそ、その教材観・指導観はほんものであるという事もわかった。

今回の観察期間は9月から翌2月であった。子供の外遊びが一番活発化する3～8月に焦点をあてての実験・調査と、また即興遊びにあらわれたリズムや旋律の音楽的分析などが次の課題となるであろう。その時はまた違った角度からの貴重な考察の結果が得られるだろうと思われる。

文 献

- (1) 飯田秀一「幼児音楽教育への基本構想」東京学芸大学教授退官記念講演 1981
- (2) ジェームス・マーセル 美田節子訳『音楽教育と人間形成』音楽之友社 1967 p.103
- (3) 武田道子「幼児の楽器遊び—Combinationの側面からとらえた指導法のくふう」音楽教育学 第10号 日本音楽教育学会 1980
- (4) ロザムンド・シューター 貫行子訳『音楽才能の心理学』音楽之友社 1977 p.64
- (5) ジェームス・マーセル 前掲書 p.211～212
- (6) ロザムンド・シューター 前掲書 p.64
- (7) 園田三郎『子どもをテレビからとりもどせ』音楽之友社 1978 p.168
- (8) ロザムンド・シューター 前掲書 p.64
- (9) 同上書 p.66
- (10) ジェームス・マーセル 前掲書 p.155
- (11) 沢田秀一・下山田裕彦・武田道子「現代幼児のリズム表現能力と音楽的環境との関連性について」静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇)12号 1980
- (12) 荒恒秀雄「天声人語」朝日新聞 1961